

旧加悦町役場庁舎

旧加悦町役場庁舎は加悦地方の中心として機能し、地域に通信インフラ、銀行、行政サービスなどを提供してきました。歴史的に重要な商店街であるちりめん街道の北側の入り口にあります。以前の市庁舎は、1927年に大きな地震が発生したときに破壊されてしまいました。そして地元の事業者たちは市庁舎の再建のために多額の資金を寄付し、1929年に加悦町役場庁舎が完成した時、この市庁舎は町の復興の象徴とされたのです。

旧加悦町役場庁舎は宮津生まれの建築家である今林彦太郎が設計し、当時最先端の耐震技術を採用しています。2階建ての旧加悦町役場庁舎は、鉄筋コンクリートの壁を備えた木造の建物となっており、巨大な木製の梁が1階の天井を作っています。そして建設当時は、この役場庁舎はマグニチュード7の地震に耐えるとされていました。

旧加悦町役場庁舎には西洋の影響が随所に見られます。建物の正面はスパニッシュコロニアル様式を彷彿とさせ、また漆喰のような壁は赤茶色の屋根瓦で覆われ、アーチ型の窓枠で装飾されています。現在この建物は市庁舎として利用はされていませんが、1階には町の重要な産業を象徴する織機、建物の模型、旧市長室など町の過去の資料が展示されており、2階は大きな集会所となっています。